

## 〔論 文〕

## 大学生の観光動機と観光懸念に関する心理学的考察

吉 川 茂

## I 問題

人はなぜ観光するのか—観光動機の問題は観光心理学における中核的なテーマの一つである。この問題に対してこれまでにたいへん多くの理論、研究結果が蓄積されてきている。その一端のみを示しておく。Ryan, C. & Glendon, I. (1998) は、Holiday Motivation Scale の因子分析により、1.social dimension, 2.relaxation dimension, 3.intellectual dimension, 4.competence-mastery dimension の4つの因子を抽出している。佐々木 (2000) によれば、旅行者モチベーションの一般特性は5次元にまとめられ、それぞれのモチベーションに対する旅行者行動は、1. 緊張解消行動 2. 娯楽追究行動 3. 関係強化行動 4. 知識増進行動 5. 自己拡大行動として説明されている。片山 (2006) は、観光モチベーションを pull 要因と push 要因に分類する。pull 要因とは佐々木 (2000) の定義では「(いろいろな生活行動の中で) 旅行という行動の範囲内で人々に具体的な目的地を選好させる動機や理由になる要因」であり、push 要因とは「特に旅行という行動に人々を方向づける一般的・基礎的な欲求としての個人的、心理的な要因 (主に、社会心理的な要因)」とされている。前田 (2008) は、観光行動生起の内発的動因について研究動機の歴史的な分類を示している。林、藤原 (2008) は、空港において出発前の日本人旅行者にアンケート調査を実施して観光動機としてつぎの7因子を抽出した。1. 刺激性, 2. 文化見聞, 3. 現地交流, 4. 健康回復, 5. 自然体験, 6. 意外性, 7. 自己拡大という7因子である。また、年齢や観光地域などによる観光動機の違いについても考察している。これらはまさに観光動機研究の氷山の一角でありさまざまな視点からの研究、分類が試みられている。

しかしながら、どのような行動にもそれを行いたいという動機とともにそれに付随する不安や心理的負担も存在する。すなわち、観光行動に対する動機がある一方で、観光することや観光中に生じる心配や不安もある。それはときには観光行動を躊躇させたり思いとどまらせたりするかもしれない。こうした観光行動に関連する気がりについては十分には調べられてきていない。ここでは、観光にまつわる種々の心配・不安・気がり・困惑・抵抗感などを観光懸念としてまとめ、大学生の海外旅行における観光懸念について調べることを目的とする。また大学生の観光動機との関連についても考察を加える。

## II 方法

大学生の海外旅行についての観光動機と観光懸念について測定するため、前者については、林・藤原 (2008) が作成した「観光動機尺度」を使用した。これは海外旅行をする日本人の観光動機の構造を明らかにする目的で開発された30項目よりなる7つの下位尺度をもつ質問紙である。ただしもとの尺度では海外旅行に出発する直前の旅行者を対象としているため、教示は「今回の旅行をお決めになられた際の考えにどの程度あてはまりますか」という表現になっている。本研究の調査では一般学生を対象としているため「あなたの考えにどの程度あてはまりますか」と教示を一部変更して使用した。7つの下位尺度の具体的な項目内容をそれぞれ2つずつ例示する。

## 1. 刺激性

- ・日本とは違う環境で新しい経験をしてみたい。
  - ・旅先ではドキドキするような興奮を感じたい。
2. 文化見聞
    - ・有名な遺跡や建築物を見てまわりたい。
    - ・美術館や博物館で芸術品を見てまわりたい。
  3. 現地交流
    - ・現地の人たちと仲良くなりたい。
    - ・現地の言葉をおぼえて、地元の人たちと話したい。
  4. 健康回復
    - ・日頃の生活でたまったストレスを解消したい。
    - ・日頃の生活で疲れた心身を癒したい。
  5. 自然体験
    - ・スケールの大きな自然を体感したい。
    - ・野山を散策して、身近に自然を感じたい。
  6. 意外性
    - ・旅先には、はっきりとした目的を決めず、流れに身をまかせたい。
    - ・行きあたりばったりの旅行がしたい。
  7. 自己拡大
    - ・価値観や人生観を変えるきっかけにしたい。
    - ・自分自身を見つめ直したい。

なお、正規の30項目に観光関連娯楽項目として観光動機に類すると考えられる5項目をつけ加えた。(項目の内容は、Table 2 に示す)

後者の観光懸念については、海外旅行に際して体験するであろう各種の心理的負担、懸念を13種想定して、その負担の程度を問う質問紙を作成した。項目の一例を示すと「(1) 海外旅行となると、どうしても費用が高額になりがちであること」に対して選択肢は「①たいへん負担(障害)になる」～「⑤ほとんど負担(障害)にならない」の5ポイント・スケールとした。

対象は、大阪府下の4年制大学の日本人大学生59名(男子:34名, 女子:25名)、講義時間内に集団で実施し、その場で回収した。

### Ⅲ 結果および考察

#### 1. 観光動機尺度に関して

まず、観光動機尺度7因子の平均値と標準偏差をTable 1に示す。7因子の平均値は選択肢4の「ややあてはまる」の前後に分布し、この尺度で取り扱われた観光動機が概ね積極的な動機として認知されていることがわかる。とりわけ「4健康回復」は高い平均値となったが、ストレスを発散してリフレッシュしたいという期待の強さの表れであろう。観光動機というよりも現代人に共通する気持ちともいえよう。一方「2文化見聞」は歴史、伝統的な事物は大学生にとってそれほど興味をひくものとはなっていないようである。「6意外性」は、旅行スケジュールを成り行き任せにするような曖昧さを含んでいるためか、曖昧さに対する不安が反映され相対的に低い数値となったものと考えられる。なお、これら平均値と標準偏差については、林・藤原(2008)が性別・年齢別にいわば基準値を示しているが、それらと類似した傾向が認められた。

Table 1 観光動機尺度の7因子の平均と標準偏差

	平均値	標準偏差	項目数
1 刺激性	3.99	0.691	7
2 文化見聞	3.46	0.900	4
3 現地交流	3.71	0.824	4
4 健康回復	4.16	0.799	3
5 自然体感	4.03	0.603	4
6 意外性	3.58	0.501	4
7 自己拡大	4.00	0.794	4

## 2. 観光関連娯楽項目に関して

Table 2 には、観光関連娯楽項目の平均と標準偏差が示されている。わずか5項目であるが、うち3項目「2）一緒に行った人と楽しい時間を過ごしたい」「3）現地の食事や飲み物、フルーツを味わいたい」「4）思い出に残るような写真を撮りたい」については、平均値が4.5前後と極めて高い数値が得られた。同行者との楽しい時間、現地でのおいしい味覚、思い出の写真などはほとんどの旅行者が希求する事項であることが理解できる。

ただし、こうした項目が海外旅行の観光動機尺度の7因子に含まれていないのはどうしてであろうか。この点に関して、林・藤原（2008）は「レクリエーションや楽しみを求める『娯楽追求』の次元は確認されなかった。本研究では、『本場の料理や飲み物を思いきり味わいたい』『ブランド品を日本より安く買いたい』といった旅先での具体的な楽しみに関わる項目での娯楽性次元の測定を試みた。しかし、因子分析の結果、各項目の共通性はそれぞれ0.29, 0.26, 0.28といった値を示したことから、最終的な因子分析からは除外した。」と述べている。それぞれの項目が別々の因子に高い負荷を示したことから「娯楽性」という因子の存在に疑問が投げかけられている。続けて「旅先での飲食、買い物、趣味やスポーツといった活動への欲求を娯楽性という1つの次元として集約することは適切ではないかもしれない。」とし、今後の検討課題と位置づけている。

海外旅行は非日常体験としての側面が強いが、こうした飲食・買い物・スポーツなどの娯楽性は日本国内の日常生活の中でも常に意識され比較的たやすく体験可能なものである。よって海外旅行での主たる動機として特別に意識されるよりも、付随して体験できるもの、二次的なものといった意識があったためではないかと推測される。

買い物に関する2項目「1）日本にはない珍しい品物を買いたい」「5）日本でよりも安く買える商品を買いたい」については、まずまず高い平均値ではあったが、他の3項目とは明らかに異なって低く、標準偏差も大きく個人差の大きい項目である。買い物を楽しみとする旅行者と、あまり関心をもたない旅行者に二分できることが示唆される結果であった。

Table 2 観光関連娯楽項目の平均と標準偏差

	平均値	標準偏差
1) 日本にはない珍しい品物を買いたい	3.85	1.101
2) 一緒に行った人と楽しい時間を過ごしたい	4.59	0.846
3) 現地の食事や飲み物、フルーツを味わいたい	4.37	0.937
4) 思い出に残るような写真を撮りたい	4.64	0.754
5) 日本でよりも安く買える商品を買いたい	3.83	1.167

Table 3 観光懸念項目の平均と標準偏差

	平均値	標準偏差
①費用が高額になりがち	1.54	0.703
②旅行日数が長くなって都合がつけにくい	2.64	1.141
③体力的に無理して体調を崩しやすい	3.69	1.118
④言葉がわからず思いどおりに通じない	2.27	1.127
⑤お金の換算が複雑でわかりにくい	2.20	1.013
⑥入国や出国の審査, 手続きが面倒でわずらわしい	2.53	1.135
⑦現地の道(地理)や交通機関で迷いやすい	2.41	1.100
⑧だまされたり犯罪の被害にあいやすい	2.17	1.085
⑨ホテルやレストランでの振る舞いやマナーに慣れていない	2.80	1.157
⑩飛行機の墜落や現地でのバスの事故などが心配になる	3.03	1.339
⑪空港諸税や燃油サーチャージ, 空港までの交通費がかさむ	2.29	1.018
⑫何かトラブルが起きたときに心細く不安になりやすい	2.37	1.128
⑬現地での観光・交通・飲食・安全などの情報が手に入りにくい	2.51	1.040

Table 4 観光懸念項目の因子分析結果

	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4
⑨ホテルやレストランでの振る舞いやマナーに慣れていない	.833	.066	-.386	-.095
⑩飛行機の墜落や現地でのバスの事故などが心配になる	.676	.252	.032	-.056
⑫何かトラブルが起きたときに心細く不安になりやすい	.598	.332	.014	.184
⑧だまされたり犯罪の被害にあいやすい	.496	.122	.017	.057
⑦現地の道(地理)や交通機関で迷いやすい	.166	.744	-.151	.160
⑬現地での観光・交通・飲食・安全などの情報が手に入りにくい	.266	.560	.179	.206
④言葉がわからず思いどおりに通じない	.062	.510	-.034	-.177
⑤お金の換算が複雑でわかりにくい	.255	.458	-.029	-.005
⑪空港諸税や燃油サーチャージ, 空港までの交通費がかさむ	.355	.143	.746	.148
③体力的に無理して体調を崩しやすい	.209	.210	-.572	.099
②旅行日数が長くなって都合がつけにくい	.093	-.019	-.265	.882
①費用が高額になりがち	-.002	.044	.163	.427
⑥入国や出国の審査, 手続きが面倒でわずらわしい	.289	.248	.022	.119
寄与率 (%)	16.79	12.75	9.36	8.89
累積寄与率 (%)		29.54	38.9	47.79

### 3. 観光懸念項目に関して

観光に関連した懸念を扱った13の項目についての平均値と標準偏差を Table 3 に示す。数値が小さいほど（1に近いほど）、海外旅行に出かけようとするときの負担や障害であると意識されていることを表している。対象が大学生であることから、海外旅行を体力的に負担の大きいものとは捉えていないようである。また、交通事故に遭遇するという心配もそれほどもっていないようである。大学生の大半にとっての最大の懸念は、海外旅行に要する費用の問題にあることは確かであろう。

これら13項目についてバリマックス回転による因子分析を行った結果が Table 4 である。因子1には、現地での事故や犯罪などトラブルへの懸念、不慣れなマナーから生じるトラブルへの懸念、そしてトラブルが発生した場合に対処できないことへの懸念などが含まれる。こうしたことから因子1は「現地トラブルへの懸念」と命名できよう。観光旅行者を特定して狙う犯罪があることは確かであるし、また旅行という性格上、交通機関を多用して移動する機会が多いわけであるから交通関連の事故の可能性も高くなる。このようなトラブルへの懸念が示されている。また、マナーについては、行き先が社会的・文化的に自らの国よりも優れているか、劣っているかという主観的判断に左右されるところが大きい。いわゆるより先進国を訪れる上り型（up-ward型）であると、マナーにおいてまごついたり、誤ったりしてトラブルを起こさないようにとの懸念が強くなるはずである。このような現地で体験しそうなトラブルに対する懸念が因子1の「現地トラブルへの懸念」である。

因子2は、観光行動に関する情報についての項目から構成されている。現地での道や利用する交通機関の情報、観光地や飲食店の情報、各種危険についての情報、その国の言語が十分に理解できないことによる情報の不足や欠如、通貨の換算率計算の複雑さなど、必要とする情報を即座に得ることの困難さからくるトラブルといえよう。そこで因子2は「現地情報への懸念」と命名するのが妥当であると考えられる。初めて訪れる外国の土地であれば、自国での経験や知識をそのまま適用できるとは限らないわけで、現地での新たな情報が不可欠になるが、それら情報が確実に得られる保証がないということも懸念の一つであろう。

因子3については、さまざまな旅行関連費用がかさむことへの懸念と、体力的には自信があり体調管理などは懸念の対象にならないという2つの項目が含まれる。費用と体力というかなり異質な取り合わせであるが、いずれも大学生という時期に特有のものと考えられる。すなわち、お金に余裕はないが体力なら自信がある、ということである。「大学生特有の懸念」としておきたい。高齢者を対象とした調査ではどのような結果になるか興味もたれる。

因子4は、海外旅行というものの基本部分に関わるものである。すなわち、国内旅行に比べ日数も費用もより多くを要するのが通常である。海外旅行をするには、費用の調達と日程の調整が基本的な障壁となりがちである。海外旅行が一般的で身近なものになったとはいえ、国内旅行や日帰り旅行と比較すれば、実施にはこの2点が基本的な負担となることは確かであろう。そこで「海外旅行基本への懸念」と名付けたい。

なお、「⑥入国や出国の審査、手続きが面倒でわずらわしい」は、平均値が2.53であり軽度の負担（障害）と認知されているが、4つの因子には含まれないという結果になった。

### 4. 観光動機と観光懸念との関係について

Table 5-1 から 5-4 には、これまでに取り扱ってきた観光動機尺度7因子、観光関連娯楽項目5項目、そして観光懸念項目13項目の相互相関が示される。

Table 5-1 の観光動機尺度内の相関を概観すると、「1 刺激性」因子が「6 意外性」を除く5つの因子と有意な相関を示した。ここでの刺激性とは、新しい刺激のある非日常を希求することを意味しており、海外旅行中のさまざまな非日常的な側面との関連が示されたものと考えられる。

Table 5-2 には、観光動機尺度と観光関連娯楽項目の相関が示される。ほとんど有意な水準に至る相関はなかった。5項目の得点は全体的に高得点域に集中したため、各相関はきわめて低くなったと考

Table 5-1 観光動機尺度, 観光関連娯楽項目, 観光懸念項目間の相関 (1)

	1 刺激性	2 文化見聞	3 現地交流	4 健康回復	5 自然体験	6 意外性	7 自己拡大
1 刺激性	1.0000	.3941**	.5597**	.3743**	.3176*	.1801	.4858**
2 文化見聞		1.0000	.5050**	.2422	.4157**	.2273	.3021*
3 現地交流			1.0000	.0982	.2581	.0494	.6451**
4 健康回復				1.0000	.2292	.2541	.2106
5 自然体験					1.0000	.0528	.2498
6 意外性						1.0000	.1323
7 自己拡大							1.0000
1) 珍品買物							
2) 一緒時間							
3) 食事飲物							
4) 写真撮影							
5) 安価商品							
①高額費用							
②長期日数							
③体力負担							
④言葉の壁							
⑤換算複雑							
⑥審査面倒							
⑦地理迷い							
⑧犯罪被害							
⑨マナー							
⑩交通事故							
⑪出費増大							
⑫厄介不安							
⑬情報不足							

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

Table 5-2 観光動機尺度, 観光関連娯楽項目, 観光懸念項目間の相関 (2)

	1) 珍品買物	2) 一緒時間	3) 食事飲物	4) 写真撮影	5) 安価商品
1 刺激性	.0957	-.3250*	-.0739	-.0704	-.0061
2 文化見聞	.1432	-.1052	.1048	.0547	-.1268
3 現地交流	-.0398	-.0795	.1193	.1122	-.0295
4 健康回復	.0916	-.1389	-.0939	.0841	.1864
5 自然体験	.1716	.1116	.0432	.0758	.0603
6 意外性	-.1620	-.1727	-.0910	.1320	.0451
7 自己拡大	-.2027	.0026	.1118	.0308	.1106
1) 珍品買物	1.0000	.2607*	.2029	.3020*	.3754**
2) 一緒時間		1.0000	.6189**	.4108**	.4453**
3) 食事飲物			1.0000	.3559**	.5075**
4) 写真撮影				1.0000	.4132**
5) 安価商品					1.0000
①高額費用					
②長期日数					
③体力負担					
④言葉の壁					
⑤換算複雑					
⑥審査面倒					
⑦地理迷い					
⑧犯罪被害					
⑨マナー					
⑩交通事故					
⑪出費増大					
⑫厄介不安					
⑬情報不足					

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

Table 5-3 観光動機尺度, 観光関連娯楽項目, 観光懸念項目間の相関 (3)

	①高額費用	②長期日数	③体力負担	④言葉の壁	⑤換算複雑	⑥審査面倒	⑦地理迷い
1 刺激性	.1069	-.0221	.1144	.1243	.2171	-.0244	.0528
2 文化見聞	-.1397	-.1937	-.0552	.0928	.2373	-.1464	-.0758
3 現地交流	-.1002	-.2663*	.0787	.2842*	.1333	-.0857	-.0185
4 健康回復	.0387	.1874	.1375	.0785	.1993	.0647	.1596
5 自然体験	.0882	.0133	.0560	-.1171	.0614	-.0197	-.1638
6 意外性	-.0158	.1478	-.0397	.0897	.0685	.0076	.2114
7 自己拡大	-.0271	-.1823	-.1430	-.0204	-.0542	-.0594	-.0069
1) 珍品買物	-.1351	.1604	.2255	-.2968*	-.0026	.1330	.1362
2) 一緒時間	-.3158*	-.0804	.1568	-.1343	-.1021	.0287	-.0594
3) 食事飲物	-.2059	.0612	.1422	-.1775	-.1886	-.0251	-.0821
4) 写真撮影	-.2133	.0303	.2960*	.1146	.0956	-.1792	.2585
5) 安価商品	.0088	.2881*	.4580**	-.1858	-.2309	.1711	.1740
①高額費用	1.0000	.3524**	.0167	.0288	.0119	.0824	.0442
②長期日数		1.0000	.2377	-.1784	.0637	.1469	.1859
③体力負担			1.0000	.2310	.0405	.1693	.2708*
④言葉の壁				1.0000	.3132*	.0350	.3544**
⑤換算複雑					1.0000	.1903	.3884**
⑥審査面倒						1.0000	.3229*
⑦地理迷い							1.0000
⑧犯罪被害							
⑨マナー							
⑩交通事故							
⑪出費増大							
⑫厄介不安							
⑬情報不足							

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

Table 5-4 観光動機尺度, 観光関連娯楽項目, 観光懸念項目間の相関 (4)

	⑧犯罪被害	⑨マナー	⑩交通事故	⑪出費増大	⑫厄介不安	⑬情報不足
1 刺激性	-.1042	-.0588	-.0285	-.0773	.0164	.1497
2 文化見聞	-.1406	.0385	.1058	.0542	.1175	.0058
3 現地交流	-.2071	.0091	.0827	-.0567	.0310	-.0694
4 健康回復	.1069	-.1191	-.1117	.0206	.1237	.2590
5 自然体験	.0848	.0810	.1101	.1550	.1304	.0412
6 意外性	.1162	-.0674	-.0678	.0044	-.1065	.0356
7 自己拡大	-.2737*	-.2132	.1007	-.0121	-.1115	-.0389
1) 珍品買物	.0790	-.0380	.0035	.1586	.1012	.1428
2) 一緒時間	-.0546	.0894	-.0028	-.2399	-.1979	-.0932
3) 食事飲物	-.1804	.0864	-.0647	-.2749*	-.1489	.0143
4) 写真撮影	-.1764	.0731	-.0557	-.3108*	-.1441	.0366
5) 安価商品	-.1256	.1136	-.0948	-.3184*	-.0815	.0012
①高額費用	.0356	-.0953	-.0382	.2598	.1537	.1115
②長期日数	.0217	.1010	.0306	-.0438	.1719	.1406
③体力負担	.0007	.4046**	.1568	-.3153*	.2831*	.0616
④言葉の壁	-.0382	.1224	.2338	.1411	.1497	.2039
⑤換算複雑	.2346	.2860*	.2999*	.0592	.2643*	.3255*
⑥審査面倒	.4304**	.2011	.1696	.1950	.1541	.2664*
⑦地理迷い	.1867	.2423	.2363	.0629	.3618**	.4790**
⑧犯罪被害	1.0000	.3577**	.3283*	.2984*	.2855*	.2278
⑨マナー		1.0000	.5726**	.0213	.4953**	.1305
⑩交通事故			1.0000	.2964*	.5396**	.3341*
⑪出費増大				1.0000	.3252*	.2989*
⑫厄介不安					1.0000	.4528**
⑬情報不足						1.0000

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

えられる。唯一、「1 刺激性」と「2）一緒に行った人と楽しい時間を過ごしたい」間だけに負の有意な相関が認められた。「非日常的な刺激」と「同行者と楽しい時間を過ごす」こととは相いれないものと捉えられているのかもしれない。

観光関連娯楽項目どうしの相互相関は一つを除いて有意な関係がみられた。特に相関の高さから、「2）一緒に行った人と楽しい時間を過ごしたい」「3）現地の食事や飲み物、フルーツを味わいたい」「4）思い出に残るような写真を撮りたい」「5）日本でよりも安く買える商品を買いたい」の4項目は観光に関連する娯楽の要素として一体的なものとして認知されていると推測できる。つまりこうした事項は観光における根底的な楽しみの一つであると考えられるのである。先に触れたように、こうした強力な動機とも思われる事項が観光動機の因子として捉えられにくいことの原因についてはさらなる検討が必要であろう。

Table 5-3 および Table 5-4 について、観光動機尺度と観光懸念項目との相関に焦点を当てて考察を加えたい。まず、両者の相関係数は、7 因子×13項目=91あるが、そのうち有意差が認められたのは、わずか3つだけである。全体として、海外観光への積極的な動機と海外観光に関わる懸念との関連性は希薄である。すなわち、海外旅行についての動機が強ければ強いほど懸念を抱かないわけではなく、また、動機が弱ければ懸念を抱きやすいというわけでもない。両者はほぼ独立した関係にあるとみてよいであろう。

有意差が認められた3つの相関はつぎの(1)～(3)で、すべて5%水準である。

- |                                    |              |
|------------------------------------|--------------|
| (1) 「3 現地交流」と「②旅行日数が長くなって都合がつけにくい」 | $r = -.2663$ |
| (2) 「3 現地交流」と「④言葉がわからず思いどおりに通じない」  | $r = .2842$  |
| (3) 「7 自己拡大」と「⑧だまされたり犯罪の被害にあいやすい」  | $r = -.2737$ |

まず(1)について、海外で現地の人々と交流したいという動機と長期旅行は都合がつけにくいのではないかという懸念とは負の有意な相関となったが、現地交流を強く希望するときには旅行日数の長さは負担に感じられないと解釈される。ホームステイほどでないにしても長く滞在して親密な交流を望むということであろうか。逆に、旅行日数が長くなって都合がつけにくいという人は、現地の人々との交流をあまり望まないともいえよう。

(2)の結果の解釈としては、海外で現地の人々と交流したい人々にとって言葉がわからない・通じないことは、交流上の負担や障害に感じられているということである。ホテル、レストランや商店なら多少日本語が通じる場所があっても、現地の人々との交流には言葉の壁は文字通り障壁となるのであろう。

「自己拡大」とは、海外旅行体験によって自分自身を発見・変化・成長させたいという動機である。(3)の結果では、「自己拡大」動機と「だまされたり犯罪の被害にあいやすい」という懸念との間に負の相関関係が得られた。海外へ旅して自分自身を鍛えたいといういわば決意を抱いている人にとって、海外は自己を高めるための場として認識され、犯罪の被害に遭遇しやすい危険な場とは考えていないことになる。あるいは単なる娯楽目的で海外旅行するのではなく自己を成長させる目的・覚悟で旅行する自分は、けっして犯罪になど巻き込まれたりしないという自己認識があるのかもしれない。

いずれにせよ、海外旅行についての観光動機と観光懸念とはほとんど関連性が認められず、観光懸念によって観光動機が影響を受けていることはないと思われる結果であった。

今回扱った観光懸念の内容は、個人的な事柄に関わる懸念が中心であった。地震、津波、洪水などの自然災害や、大規模な伝染性疾患の流行、政治的・宗教的な理由による治安の悪化などは取り上げていない。観光動機を圧倒してしまうほどのこれらの現象は、時期的に、また地域的に限定される突発的なものであるため、別種のものとして扱うのが適当であると考えたためである。しかしながら観光動機と拮抗するようなこれら現象との関連の探求も今後の重要な検討課題として残される。



## 要 約

海外旅行についての観光動機と観光懸念の状況と関係を大学生を対象として調べた。林・藤原（2008）による「観光動機尺度」（7つの下位尺度，30項目）とそれに追加して観光関連娯楽項目5項目を講義時間に集団施行した。さらに海外旅行において負担（障害）となりそうな要素を13項目にまとめた観光懸念項目も同時に実施した。

観光動機尺度は出発直前の海外旅行者を対象として作成されたものであるが，今回は通常の大学生59名を対象とした。しかしながら下位尺度の得点はさきに示された数値と近似した傾向となった。観光関連娯楽5項目はすべて高い肯定度となり，観光動機となり得る可能性が示唆された。観光懸念13項目は，因子分析の結果，4因子「現地トラブルへの懸念」「現地情報への懸念」「大学生特有の懸念」「海外旅行基本への懸念」が抽出された。

観光動機と観光懸念の相関は総体的に低く，相互に影響を及ぼしあわない独立したものとみなされるとの結論を得た。

## 参考文献

- Ryan, C. and Glendon, I. (1998) Application of Leisure Motivation Scale to Tourism. *Annals of Research* 25. 169-194.
- 佐々木土師二（2000）『旅行者行動の心理学』 関西大学出版部
- 佐々木土師二（2002）「海外旅行に関する大学生のモチベーションの実証分析」『関西大学社会学部紀要』 34.1, 219-243.
- 佐々木土師二（2007）『観光旅行の心理学』 北大路書店
- 須藤 廣 遠藤秀樹（2005）『観光社会学』 明石書店
- 林 幸史 藤原武弘（2008）「訪問地域，旅行形態，年齢別にみた日本人海外旅行者の観光動機」『実験社会心理学研究』 48. 17-31.
- 林 幸史 藤原武弘（2011）観光動機尺度 堀 洋道（監）『心理測定尺度集V』サイエンス社
- 堀川紀年 石井雄二，前田 弘（編）（2003）『国際観光学を学ぶために』世界思想社
- 前田 勇（2008）『観光とサービスの心理学—観光行動学序説—』学文社
- 前田 勇 佐々木土師二（監）小口孝司（編）（2006）『観光の社会心理学』 北大路書房
- 宮原英種 宮原和子（2001）『観光心理学を楽しむ』ナカニシヤ出版
- 吉川 茂（2003）「旅行者新奇性に関する心理学的考察」『阪南論集 人文・自然科学編』第38巻第2号，41-49.

(2011年11月25日掲載決定)